

「情報化」することができる人間を育てる	1
新しいスタディの世界 インタラクティブ・スタディとは？	2
スタディノートを利用した「総合的な学習の時間」で活用できるデータベースの作成	4
ECONews 登録教材のご紹介 No.4 「三平方の定理」	7
スタディノート授業実践ビデオお待たせしました！ / 全日本教育工学研究協議会全国大会	8
おめでとうございます！ / 先進的教育用ネットワークモデル地域事業研究大会のお知らせ	8

「情報化」することができる人間を育てる

中山 和彦

子供たちが校庭や野外へ出て、植物観察をする活動がありますが、それは困るという先生がいます。どうして困るのかというと、先生方が植物の名前を知らないからです。子どもに「先生、これなに？」と聞かれて答えられないと、先生として恥ずかしい。先生としてだめだと思われる。自分でもそういうのはいけないと思う。そうすると結果的に、子供たちに十分な自然観察をさせなくなってしまいます。

私は、自然観察をやっている人たちのリーダーを集めて研修会をやったことがあります。そのとき私は、「観察会では昆虫や植物の名を教えなくていい」と言いました。自然観察に参加される方は、名前をたくさん知っている方が多いので、皆さんびっくりされたようでした。私はその代わりに「グループでそれぞれ新しく見つけたものがあれば、その名前をつけさせよ」と言いました。というのも、「これは」と植物の名前を言ってしまうと、自分自身でその植物をよく見なくなってしまうと名前をただ覚えるだけになってしまうのです。自分たちだけで名前をつけようとすると、その植物の特徴をつかむためにじっくり見て調べなければいけません。そして観察会が終わった後、グループごとに「この植物にこういう名前をつけました。理由はこういう特徴で...」と発表をしていきます。そして興味を持って、さらに詳しく調べていくのです。

このようにして、自分の頭の中にあるものを人に認知できる形にしたり、今まで知らなかったものを調べて形にしたりすることを『情報化』と言います。「情報」は英語で「インフォメーション」といいます。

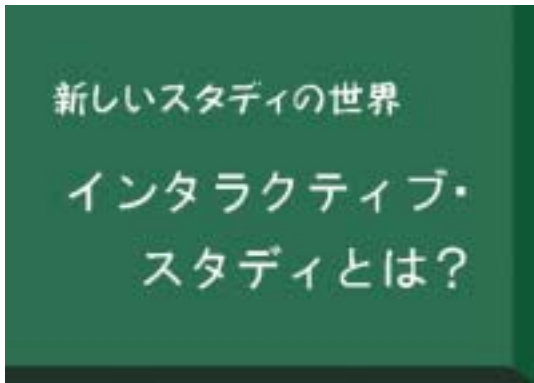
これをインとフォーメーションの二つにわけて考えると「入ってくるもの」を「形にする」となり、理解しやすくなります。情報化社会だと盛んに言われる今、『情報化』することができることは、未来の社会を生きる上で大切なことです。

情報化の方法としては、「言葉で表す」「文字にする」「絵に描く」「音楽で表わす」「形として表わす」などがあります。例えば、ある場所を地図に表わして描くというのも『情報化』です。それらを補助する道具の一つとして、鉛筆やノートと同じようにコンピュータが使われていくことは、言うまでもありません。

新学習指導要領の総合的な学習のねらいには、子どもの興味関心に基づいて、自分で課題を見つけて判断したり考えたりし、問題解決や探求活動を主体的創造的に取り組める態度を育成する、ということが書かれています。そこでは、情報を集める、調べる、まとめる、発表をする、討論をする、などの力を身につけることが必要とされています。まさにこれは『情報化』することができる人間を育てることです。

先に述べた「見つけた植物に名前をつける」活動には、このねらいに対するヒントがたくさん含まれているのではないのでしょうか。ちがいは、先生が名前を教えるか、子供たちが名前を自分で考えるか、の視点だけです。総合的な学習の時間のみならず、他の教科や特別活動の時間でも、「情報化することができる」人間を育てる視点をもう一度見直されてはいかがでしょうか。

(筑波大学名誉教授 / 21世紀教育研究所所長)



インターネットエクスプローラでスタディの教材が動く？ Web上で32 - 18 = 24と答えたら「くり下がりをわすれていませんか？」とちゃんとメッセージが出る??さらに間違えたら、「くり下がりの復習」へ進んでしまう!?こんなことが現実になりつつあります。21世紀の最初の年、スタディの世界はもう一步新しい「インタラクティブ・スタディの世界」に足を踏み入れることになりました。

2001年夏、長野県での研修会での東原先生の講義からその一端をご紹介します。

インタラクティブ・スタディとは

インタラクティブ・スタディは、1978年に開発および竹園東小学校での実践が始められたクラスルームCAI、およびその普及システムとしてのスタディシリーズの基本設計思想を継承しながら、「Web上での学習をトータルに支援するシステム」として現在開発されているものです。我々のCAIシステムは文字しか使えないときは文字だけで、次に絵や音が出せるようになったときはそれらを活用してというように、その時々の新技術を取り入れて「新しいCAI」を開発してきました。今度はインターネットいわゆるWebの時代になったので、その環境上でより理想的なCAIを実現しようとしています。しかし、いつの時代も技術的には進歩しても、基本的な考え方は変わっていません。教育目標や誤答の分析に基づいて教材を設計すること、学習者の学習情報を保存し、活用できること、学習者の理解の状態に応じて教材が展開することなどWebの時代になっても「未来の教室」の考え方は変わりません。

なぜ「インタラクティブ・スタディ」と名付けたか

スタディCAIを継承しているのならば、なぜスタディWebCAIと言わずに「インタラクティブ・スタディ」と言うのか不思議に思う方もあると思います。しかし、「CAI」という言葉には誤解や偏見もあるように感じます。CAIと聞いただけで、「あれはダメだ、

もう古い」とおっしゃって子供たちには使わせないという方もあります。いくら良いものを作っても、肝心の子供たちに使ってもらえる機会が得られないのでは、結局子どもたちのためになりません。そこで、CAIに変えてもっと良い言葉はないだろうか、我々のずっと考えてきたもの、実践してきたものを端的に表す言葉はないだろうかと探してみました。そして、たどり着いたのが「インタラクティブ・スタディ」でした。まだ、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、当面インタラクティブ・スタディと呼んでいきたいと思っています。

インタラクティブ・スタディの世界

インタラクティブ・スタディの世界を簡単に図1にしてみました。DOSのスタディタイムで動かす教材はDOS版スタディライターで作りました。Windows版スタディタイムの教材を作る道具はWin版スタディライターでした。今回のWeb上で動く教材を作る道具はスタディWebライターという名前を仮につけました。これを使ってスタディWeb教材を作ります。それをスタディWebサーバに登録します。そして、子どもたちが実際に学習するときはインターネットエクスプローラ等ホームページを見るブラウザと呼ばれるもので実行します。ですから、Web版スタディタイムというものは存在しません。

スタディWeb教材は各学校のサーバの中にあってもいいし、インターネット上のどこかのサーバに入っているでもいい。そして、教室のコンピュータからサーバにつないで勉強する、または、家庭やその他のところにあるコンピュータからつなぐことができるというのが基本的な形と考えています。

スタディWebサイトの考え方

インタラクティブ・スタディをやっていくために、スタディWebサイトというものをだんだん構築しなければなりません。図2は、スタディWebサイトの主な役割を示しています。専用サーバは、学校単位、地域単位、全国レベルといった階層を想定してします。また、用途としては、大きく分けると教材を作るとき支援する、実際の学習を支援する、先生が

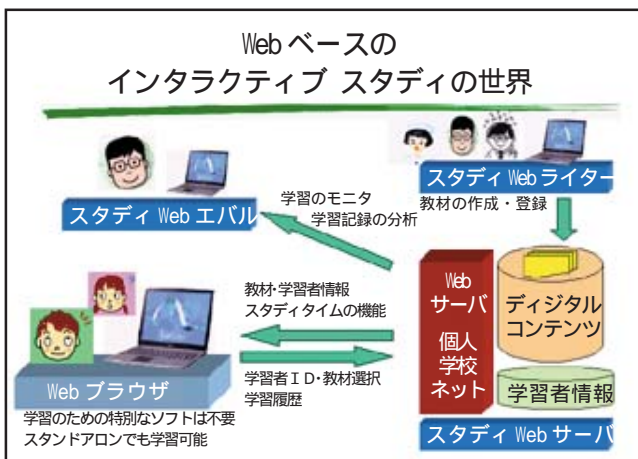


図1

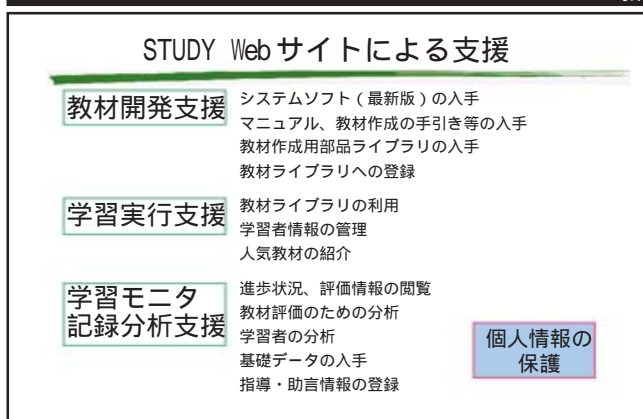


図 2

モニターの使うといったようなことが Web 上で処理できることを想定しています。

教材は各地のサーバに分散して蓄えられます。子どもたちはインターネットを使ってどこからでも学習できます。今までのように、学校のサーバにない教材は学習できないということはありません。また、教材は Web 上で展開するのですから、教材の分岐機能は他のサーバ上の教材にリンクすることでも実現できます。今まで同じ教材の中で治療ルーチンへ分岐していたものが、他のサーバ上にある治療部分だけのスタディ Web 教材にサーフィンすることも可能になります。地域単位や全国レベルのサーバならば人気の高い教材やよく使われる教材のランキングを出すことも可能になります。

学習履歴はサーバの学習者情報に記録され、学習の再開情報、評価等に利用されることはいうまでもありません。先生がお使いになる場合、Dos 版や Win 版のスタディネットやスタディエバルを使ってやっていた処理が Web 上でできるようになります。また、「先生をよびなさい」の時の指導や助言がテレビ電話やネットミーティングのような形でできるようになるかも知れません。

スタディ Web ライターで作るスタディ教材

スタディタイムがなくなってもインタラクティブ・スタディはスタディシリーズか？という疑問を持たれる方もいらっしゃると思います。スタディ教材の最大の特徴は、学習情報を保存し、教材の中で、または、授業後の評価に活用できることです。学習者の理解の状態に対応した画面が出て、40人が一斉に授業を始めても、子どもたちは10分もするとスピードの違いだけではなく、やっている中身そのものが違ってくる、個に応じた学習をするというのがスタディの教材です。それはスタディ Web 教材になっても変わりません。そうした Web 教材を作る道具がスタディ Web ライターです。

教材をホームページビルダーやページミルといった様々なソフトで作って Web サーバに入れ、ブラウザ

で勉強するというはすでに行われています。しかし、こうしたソフトを使って、先に述べたようなスタディ教材を作ることはできません。現在、Web 上で調べ学習に役立つ教材、問題集のような教材がたくさんあります。しかし、評判が良いといわれるものを見ても、いわゆるページめくりのようなものが結構あります。以前、ページめくり式の CAI はダメだと言われたのに、そうしたものが Web 上に載っただけで「良い」と言われる、とんでもない話です。

そこで、世の中にあるホームページを作るようなソフトと同じような感覚で画面を作って、結果的に洗練された本当の CAI 教材を作る道具として、スタディ Web ライターを開発しています。開発途上のスタディ Web ライターで作った教材でも SST (個別学習状況記録) はちゃんと動いていますし、学習履歴に応じて分岐する個に応じたスタディ教材ができます。

スタディ Web ライターの特徴

スタディ Web ライターが従来のスタディライターと大きく違う点について少し紹介します。一番の違いは、教材の設計を支援する機能が追加されたことです。(図3) Dos 版や Win 版では画面のイメージや学習制御をコーディング用紙に手作業で記入してからコンピュータに入力していました。しかし、スタディ Web ライターでは、フローチャートをいきなりコンピュータの画面上で作成して教材を作ります。コーディング用紙はなくなりました。フローチャートができあがってそこから画面を作っていく、という本来の思考に沿った作り方に変わります。もちろん、具体的な問題から思い浮かぶ方は、画面を先に作ってからフローチャートで教材に組上げていくという作り方で教材ができるようになっています。(図4)

さらに、学習指導要領や目標・応答カテゴリーをライブラリー化して、簡単に教材に取り込めるようにすることによって、教材の基本設計を支援できるようになります。また、これらはメッセージ等の教材作成部品ライブラリーとともに、以前から提唱し

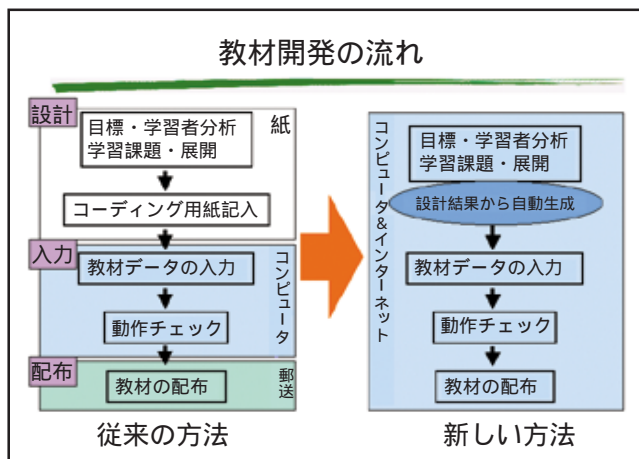


図 3

できた「できたものをみんなで利用して、より手軽に教材を作る」という考えを実現するものになります。

また、スタディライターでやらなければならないことは、学習者の回答・反応によって次にどうするか、という決定・判断の部分であり、学習者の理解状況において次の学習をどういうふうに進めたいかという部分に尽きると思います。その部分に関しては相当力を入れていきたいと考えています。また、画面をよりきれい見せるとか図やアニメーションを活用するといったことは、他のソフトで作って貼り付けるようにし、グラフィックの機能は最低限にとどめてあります。

終わりに

以上述べてきたことは、インタラクティブ・スタディの基本的な方向を示したものです。スタディ Web ライターを使って、インターネットエクスプローラで動くスタディ Web 教材ができるようになったこと以外の大部分は、まだ実現していません。スタディ Web サーバを管理する上での約束事、たとえば先生がお使いになる場合、どの先生がどの子どもの情報を見たい

いか、子どもの情報にしてもどの情報まで保存していいのか、してはいけないか、というようなことなどを含めても、まだ開発はスタートしたばかりです。今後は、いろいろな方々のご意見なども伺って、子どもたちにとって、また、先生方にとって中身の濃い、使いやすいシステムに作り上げていかなければならないと考えております。

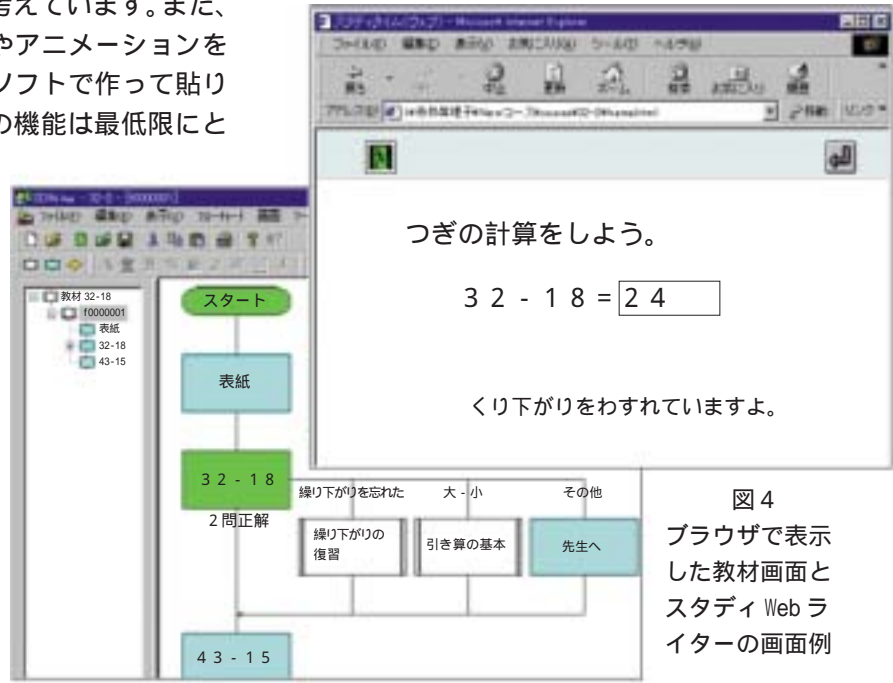


図4
ブラウザで表示した教材画面とスタディ Web ライターの画面例

この記事は、2001年8月に長野県更埴市の大池自然の家で開催された「WebCAI 教材作成合宿」での東原先生の講義を ECOnews でまとめたものです。「インタラクティブ・スタディ」についてのご質問は、東原先生 (higashi@gipwc.shinshu-u.ac.jp) へお願いいたします。なお、東原先生は、日本教育工学会第17回大会(平成13年11月23～24日 会場・鹿児島大学教育学部)で「Web ベース学習システム『インタラクティブ・スタディ』の開発」のタイトルで口頭発表されます。(東原先生の発表は24日午後)

スタディノート 授業実践



スタディノートを利用した 「総合的な学習の時間」で活用できるデータベースの作成

沖縄県具志川市立兼原小学校 教諭 與那嶺 忠

はじめに

私がスタディノートと出会ったのは、本校に赴任したときである。具志川市は「OCT教育」という教育政策のもとに、オープン教育、コンピュータ、ティームティーチングが盛んである。特にコンピュータ教育には力を入れており、全県でも市の小中学校全部にスタディノートが導入されているのは具志川市だけである。

他市から来た私はスタディノートを全く知らず、特に気にも止めていなかった。ところが、平成12年のワークショップに偶然にも参加することができ、そこでスタディノートのすばらしい機能に驚愕し、それ以

来スタディノートに“はまって”しまった。

今年度、念願の沖縄県立教育センターで半年間の研修ができるようになり、この期間を利用して「スタディノートを利用したデータベースの作成」を研究することにした。

1 「外国を調べようデータベース」の作成 (1) 作成の理由

本校では、コンピュータを使った授業が数多く行われている。中でもインターネットを使っての調べ学習や、教材ソフトを使用している学習などが主である。しかし、児童の実態を見るといくつかの課題が残されている。例えば、「総合的な学習の時間」において

環境教育をテーマに実施し、インターネットを活用した調べ学習を行ったところ、ほとんどの児童が検索に時間をとられ、肝心の調べ学習ができなかった。そのため、コンピュータを活用した学習に苦手意識をもつ児童も出てきてしまった。

そこで、インターネットへリンクできるデータベースや児童の作品データベースを作成し、児童が自ら情報の入手や発信を容易に行える学習環境を作ることによって、児童の表現力や問題解決能力を伸ばし、学習意欲を高めていきたいと考え、本データベースを作成した。

(2) 作成のねらい

「総合的な学習の時間」における国際理解の学習活動において、児童が情報の検索を効率的に行えるようインターネットへリンクできるデータベースとする。

児童が収集した情報のまとめ、発信が簡単にできるようなデータベースを作成し、容易に情報交換ができるようにする。

(3) 作成の基本方針

ポートフォリオ評価を意識し、それが容易に行えるスタディノートを活用しながら作成する。児童のテーマに関連したリンク集を作り、必要な情報をできるだけ広く収集できるデータベースを作成する。

児童の学習をそれぞれ「個人データベース」として収録し、スタディノートの機能を利用して容易に情報交換ができるようにする。

(4) 「外国を調べようデータベース」の内容

国際理解の学習活動で活用できるホームページを収録した「外国を調べようデータベース」の内容を選定するために、次の4点に留意した。

児童のテーマに即したホームページを検索し、児童にわかりやすいタイトルをつける。
調べ学習の幅が広がるように一つのテーマに対し

て多くのホームページにリンクする。

難しい語句や読めない漢字にも対応できるように「一太郎スマイル」(ジャストシステム)に内蔵されている「ドクターマウス」機能を使用する。

児童の作品は、できるだけ「個人データベース」に保存し、その学習過程がいつでも確認できるようにする。また、他の児童からの意見や感想も子情報として追記できるようにする。これにより、データベースとしての内容の充実が図られるようになる。

データベースを作成するにあたってアンケート調査を行った結果、「食べ物」に関して興味を持っている児童が多く、次いで「スポーツ」「言葉」「民族衣装」などとなっている。その他「各国のちがい」「行事」「パレード」「お城」「動植物」なども見られた。その結果も踏まえながら、さらにいろいろな視点から外国の情報を集められるように8項目をメニュー画面とし、それぞれのテーマからたくさんのホームページにリンクできるようにした。「その他」のページには「英語」「生活」「遊び」「文化遺産」「おもしろ情報」にリンクできるようにした。

2 授業実践

(1)実施日 平成13年7月6日(金)

(2)対象学級 兼原小学校5年1組

(男子19名 女子18名 計37名)

(3)単元名 「外国を調べよう」

(4)授業の実際

児童は、自分のテーマに合った内容のホームページにアクセスして調べ学習を行った。ホームページにある情報をそのまま書き写すのではなく、自分の言葉でまとめるように指示を出した。これは、見せる情報を意識させることで、調べた方やまとめ方を身につけさせるためである。そのために、ワークシートを使いまとめたことをノートに打ち込ませた。

一通り情報を整理したら、自分のデータベースにのせ発信させた。友だちの情報がデータベースにどんどん入ってくるのを興味深そうにのぞき込んでいる児童が多かった。(写真1)

友だちのデータベースに子情報で意見や感想のせるようにした。相互評価を意識し、まとめ方のよい点や改善点をのせるように指示を出した。質問も多く寄せられ、情報交換でお互いに学び合う場面が多く見られた。

A児は、「世界の行事」から「イースター」について調べたことを個人データベースで発信した(図1)。それに対してB君が「イースター」の意味を質問(図2)した。そのやりとりを見ていたC君がドクターマウス機能を使って調べ、子情報で回答を送るのだが(図3)、機能の操作が十分にできなかったB



写真1

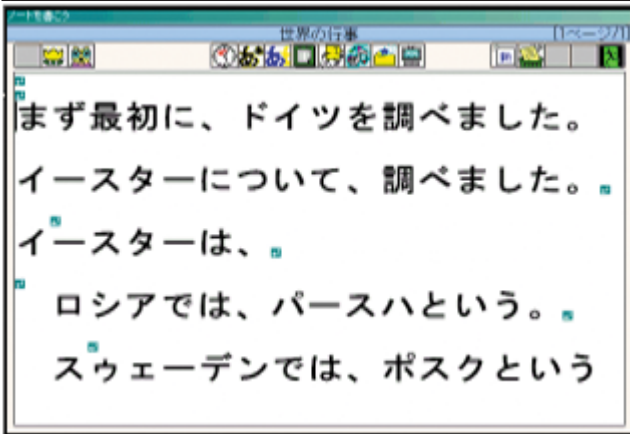


図1 A児が作った親情報

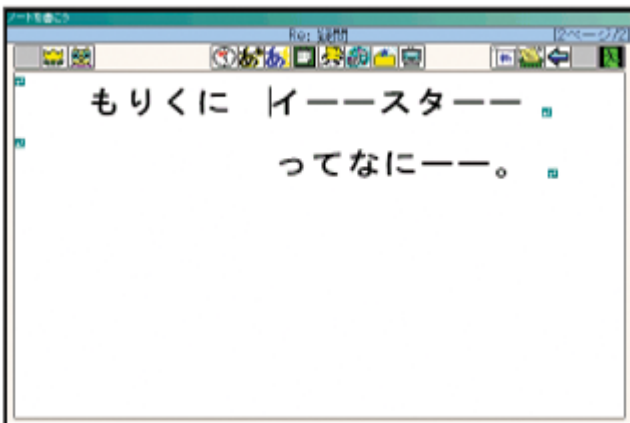


図2 B児の質問

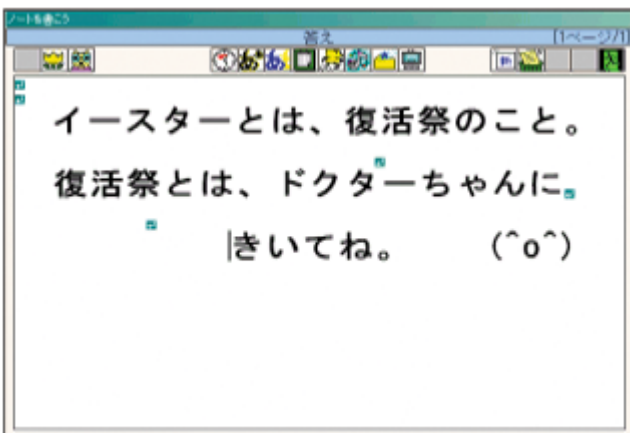


図3 C児からの情報

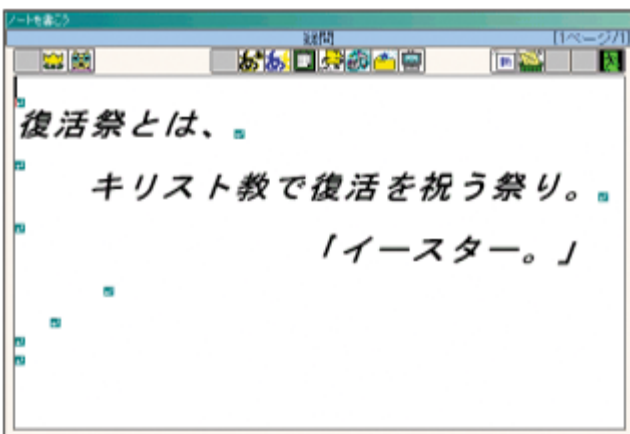


図4 B児が調べた子情報

君はとなりの図書室に行き、辞書で調べて解決した。そして子情報にまとめて発信したのである(図4)。

このようにお互いの情報交換が容易にできることで、自分の考えを受け手の立場に立って筋道を立てながら伝えたり、友だちが発信した情報をもとに自分の情報を改善できるなど、課題を解決するために情報を有効的に活用でき、自己評価や相互評価が可能になると考えられる。

授業後、児童にアンケートをとったところ、「友だちに子情報で感想や質問を書くことができたか」という質問に対し86%の児童ができたと回答しており、情報交換に関しては全員が興味を示していた。

このことから、このように情報交換が容易にできるデータベースを活用し、情報のやりとりをすることで、相手に正確に伝えるための表現力や問題解決能力が高まることが検証できた。

これらの結果から、「外国を調べようデータベース」を活用することで、児童の学習意欲が高まることが確認できたと考える。しかし、「自分のテーマに合ったホームページがなかった。」「友だちと意見交換ができなかった。」という意見もあったことから、さらに児童個々に対応できる工夫が必要ではないかと考える。

3 まとめ

今回は児童自らが情報の入手・発信が行える学習環境作りを目的として、インターネットへリンクできるデータベースや児童の作品データベースの作成を中心に研究を進めてきた。学習グループウェア「スタディノート」の活用で、情報の収集や情報交換が容易にできるデータベースに仕上がった。また、様々なメディアの特性を考えながら情報の収集・整理・発信を行い、さらに、友だちとの情報のやりとりを通して、知らないことを発見し、調べ、解答を見つけることで知識が深まることも検証できた等、大きな成果が得られた。

この研究から、情報の検索を効率的に行えるデータベースを利用することで、児童は意欲的に学習に取り組むことができることが分かった。また、児童は友だちとの情報交換を通して、自分の課題を見つけ、改善することができると言える。これは、データベースの活用により、検索に時間をとられ肝心の調べ学習ができなかったことの解決につながり、児童の学習意欲が高まることにつながったと考える。引き続き、情報の整理・分析・発信に力を入れ、児童の表現力や問題解決能力をさらに伸ばしていけるような授業ができるように研究を深めていきたい。



《 ECO News 登録教材のご紹介 No.4 》

登録番号 22 教材名 「三平方の定理」

作成者 宮本肇（石川県小松市立中海中学校）



学年 中学校3年生
 教科/単元 数学/三平方の定理
 コースの目標 幾何的な面から定理を発見できる。
 定理の幾何的な証明を理解できる。
 定理を直角三角形の辺の長さを用いて表わすことができる。



CAI学習というと、単元終了後に復習として扱うイメージが強いですが、このコースウェアは、単元「三平方の定理」に入っていちばん最初の時間に使われるものです。子どもたちは、コンピュータで学習を進めながら、一人ひとり自分の力で三平方の定理を発見することができます。

コースウェア作成の意図

生徒自身は、本来、自ら考えたり、自ら発見したり、疑問を持ちそれを探究したりしていく姿勢を持っています。一斉授業でも、その雰囲気があって且つ、それを引き出す授業の組み立てが教師側にあつてこそ、ダイナミックな授業が成立します。それが生徒の意欲を喚起したり、数学に対する興味、関心をさらに高めていくのです。

しかし、一斉授業下で40名余りの生徒が同時に一つのことを発見したり、気づいたりすることがあるでしょうか。実際には『考えた』という充実よりも、結果だけを試験用に暗記するだけにとどまっている場合が多いのではないのでしょうか。これでは思考能力は育めません。

幾何的な面と代数的な面の両者を併せ持つこの美しく魅力的な『三平方の定理』を、できるだけ興味深く指導し、一人ひとりの幾何的な直観力、洞察力を発揮させ、ただ覚えるだけではなく、発見した際の素朴な喜びを一人ひとりに持たせたいという思いから、このコースウェアが生まれました。

コースウェアのおもな流れ

直角三角形に接する3つの正方形の面積を求め、その関係性を発見していきます。直角二等辺三角形 直角三角形 鋭角三角形 鈍角三角形の順で面積を求めていき、三平方の定理は直角三角形のみに成立することを導きます。さらに三平方の定理を証明し、最終的には面積の視点から辺の長さへ視点を移し、『三平方の定理の逆』を導き出します。

この記事は、教師用マニュアルを参考に編集しました。

コースウェアの実際

正方形P、Q、Rの面積は直角二等辺三角形の何個分になりますか。

問	P	Q	R
1	2	2	4
2	2	2	4
3	2	2	4
4	2	2	4
5	2	2	4
6	2	2	4
7			
8			

【図1】タイルを使って、直角二等辺三角形に接する3つの正方形の関係について考える。

(問1) 次のようにRの面積を考えてみよう。

正方形の面積は (cm²)

直角三角形1個分の面積は (cm²)

【図2】応用を要する正方形の面積については、グラフィックを使い、スモールステップで考えていく。

注意2 DC = AC

注意1 B Cを同じ長さで

直角三角形ABCの C (= 90°) を大きくしたので三角形DBCは鈍角三角形になりますね。この鈍角三角形DBCの、それぞれの辺を一边とする正方形P、Q、Rをコンピュータが作っています。

【図3】動くグラフィックを使って、直角三角形を鈍角三角形にし、鈍角三角形で三平方の定理が成り立つかどうか考える。



スタディノート授業実践ビデオ お待たせしました！

前回大好評をいただいたスタディノート授業実践ビデオの ができました。

ぜひ研修会等にお役立て下さい。

スタディノート実践事例集

「音楽」「生活」学習へのスタディノートの活用
滑川市立西部小学校 水橋渉先生

子供たちが自分で撮った動画や写真を貼り付けたデータベースが紹介されています。子供たちの生き生きとした活動の様子を見ることができます。水橋先生のお話も感動的です。

スタディノート実践事例集 (11月中旬完成予定)

スタディノートによるデジタルポートフォリオ評価
五年国語「朗読」への活用

つくば市立竹園東小学校 吉田浩先生
筑波女子大学 余田義彦先生

吉田先生のデジタルポートフォリオを活用した国語科「朗読」の授業実践です。余田先生による「デジタルポートフォリオ評価」のわかりやすい解説つきです。

配布をご希望の方は、下記へお問い合わせ下さい。

シャープシステムプロダクト(株)文教統轄営業部

[E-mail] study@ssp.osa.sharp.co.jp

[FAX] 06-6624-0764

[TEL] 06-6625-3233



全日本教育工学研究協議会全国大会

おめでとうございます！

第27回全日本教育工学研究協議会全国大会で、次のお二人の先生がスタディノートを使った授業実践で受賞をされました。おめでとうございます！！

福島健介先生(東京都八王子市立別所小学校)

上月情報教育賞優秀賞(賞金100万円)

最優秀賞は該当者無しなので事実上の一等賞！

石塚康英先生(茨城県取手市立戸頭西小学校)

第4回コンピュータ教育実践アイデア賞

社団法人日本教育工学振興会会長賞

(賞状、クリスタル楯+副賞)

文部科学省指定 学びに生かすネットワーク 先進的教育用ネットワークモデル 地域事業研究大会

期日 平成13年11月28日(水)

日程

【午前の部】授業公開(つくば市立竹園東小学校 / つくば市立並木小学校 / つくば市立竹園東中学校)

【午後の部】全体会(実践発表 / パネルディスカッション / 記念講演・21世紀教育研究所 中山和彦)

問い合わせ つくば市教育委員会指導課

〒300-2642 つくば市高野 197-20

TEL/0298-36-1111(内線4224) FAX/0298-47-7990

E-mail/snet@tsukuba.ed.jp

参加申込は10月31日に終了しています。



ECONews登録教材 配布します！

昨年度21世紀教育研究所では、ECONews登録教材WIN版への移行作業を行なってきました。現在、郵送会員以外の方は、ホームページから教材をダウンロードしていただく形をとってきましたが、それら教材を1枚のCD-ROMにまとめました。

このCD-ROMをご希望の方は、封筒に80円切手6枚を同封の上、封筒に「教材CD-ROM希望」と明記して、下記の21世紀教育研究所までお送り下さい。



ECONews郵送会員登録 随時 受付中

ECONewsは、21世紀教育研究所のホームページをご覧になるか、または郵送で受け取ることができます。郵送会員には、年会費1000円で、年6回発行のECONewsとECONews教材CD-ROM、スタディシリーズ試用版CDなどを無償で配付いたします。くわしくは、下記までご連絡ください。

注意 ECONews教材CD-ROMは、希望者のみの配布となっています。申し込みをされる際は申込用紙に教材CD-ROM希望とお書きになるか、その旨を当研究所までお伝え下さい。

先日、テレビの特集番組の中で、シアトルマリナーズのイチローが、「相手投手に完敗した打席は仕方がない。しかし、自分のミスで打てなかった打席は重要。なぜそうなったかを考える。」と語っていました。また、「自分には、各試合ごとに目標がある。」とも。イチローって「スタディの仲間」だったんですね

Educational Research Institute for the 21st Century

21世紀教育研究所

address 〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6

TEL 0298-50-3321

FAX 0298-50-3330

e-mail econews@green.ocn.ne.jp

URL http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp